# かなしん景況レポート

## No. 48

## 2019年4～6月期

### 目　次


目次・調査概要 …… 1
全業種総合 …… 2
全業種・地区別景気動向グラフ …… 4
製 造 業 …… 6
卸 売 業 …… 8
小 売 業 …… 10
サービス業 …… 12
建 設 業 …… 14
不動産業 …… 16
特別調査 …… 18
お客様景況インタビュー …… 19


### 調査概要

1. 調査時期
   令和1年6月上旬
2. 調査地域
   神奈川県横須賀市、逗子市、三浦市、三浦郡葉山町
   鎌倉市、横浜市、川崎市、藤沢市、茅ヶ崎市、大和市
   綾瀬市、高座郡寒川町
3. 調査方法
   調査員による面接聞き取り方式、または対象企業先による直接記入方式
4. 分析方法
   各質問項目で、「増加」(上昇)したとする企業が全体に占める構成比と、「減少」(下降)したとする企業の構成比との差(D.I.)を中心にして分析を行いました。

### 調査先および回答状況・全業種総合

| | 依頼数 | 回答数 | 回答率 |
|---|---|---|---|
| 製　造　業 | 93 | 82 | 88.2% |
| 卸　売　業 | 50 | 42 | 84.0% |
| 小　売　業 | 118 | 105 | 89.0% |
| サービス業 | 90 | 80 | 88.9% |
| 建　設　業 | 96 | 75 | 78.1% |
| 不動産業 | 53 | 47 | 88.7% |
| 合　　計 | 500 | 431 | 86.2% |

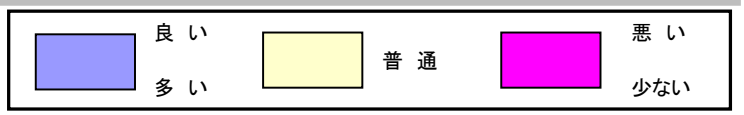
| 全業種総合 | 当期実績 4～6月期 | 来期予想 7～9月期 |
|---|---|---|
| 業　　況 | ▲ 9.3 | ▲ 6.1 |
| 売 上 額 | ▲ 10.7 | ▲ 8.0 |
| 収　　益 | ▲ 16.6 | ▲ 11.4 |
| 資金繰り | ▲ 8.4 | ▲ 10.0 |
| 人　　手 | ▲ 40.8 | ▲ 40.0 |
| 設備状況 | ▲ 16.5 | ▲ 16.2 |


本レポートは、情報提供のみを目的とした標記時点における当金庫の考え方を示したものです。施策実施等に関する最終決定は、ご自身の判断でなされますようお願いします。また、この資料は、当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データに基づいて作成されていますが、その情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。


かながわ信用金庫 かなしん

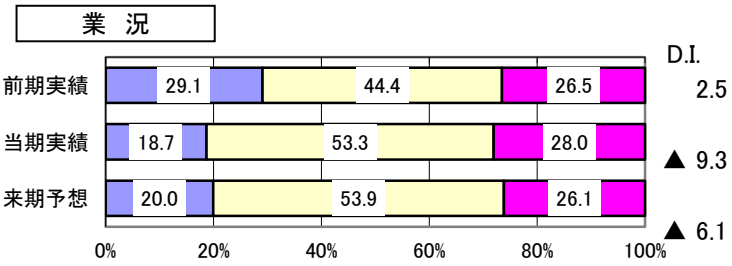
# 全業種総合

当期実績（2019年4 ～ 6月期実績）
来期予想（2019年7 ～ 9月期予想）



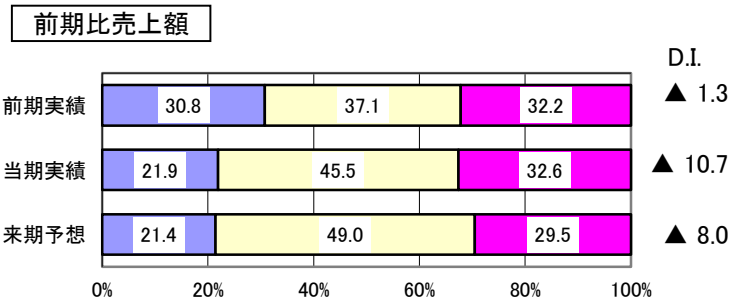

## 1. 業　況

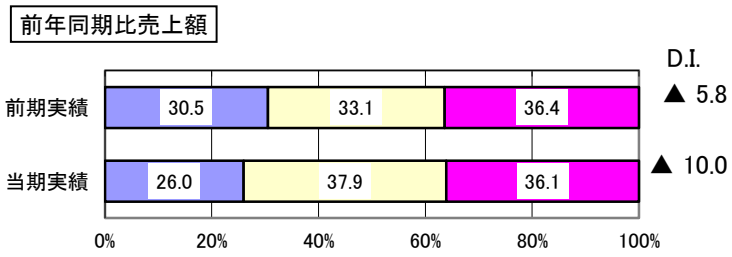
当期の業況判断D.I.は▲9.3と、対前期比11.8ポイントの2桁低下となり、1年ぶりにマイナス水準となりました。地区別に見ると、すべての地区でマイナス水準に転じ、横須賀地区は14.6ポイントの2桁低下となり低下幅が最も大きな地区となりました。業種別に見ると、サービス業以外はすべて低下し、製造業、建設業、不動産業は20ポイント超の大幅な低下となりました。全業種の来期予想D.I.は▲6.1と、業況はマイナス水準ながらも小幅改善する見込みです。




## 2. 売 上 額

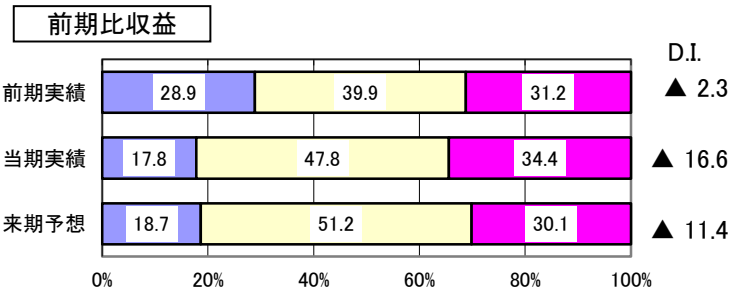
当期の売上額判断D.I.は▲10.7と、対前期比9.4ポイントの低下となりました。業種別に見ると、卸売業とサービス業はマイナス水準ながらも改善となりました。他の業種はすべて低下となり、特に建設業は25.7ポイントの大幅な低下となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲10.0と、1～3月期から4.2ポイントの低下となりました。全業種の来期予想D.I.は▲8.0と、売上はマイナス水準ながらも小幅改善する見込みです。

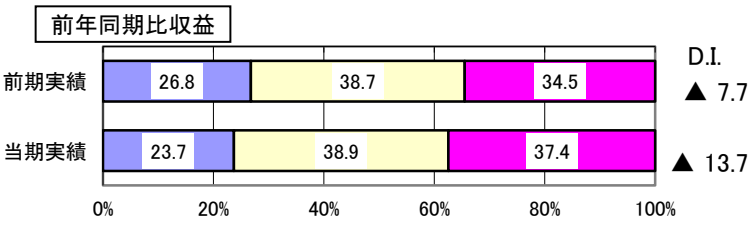



## 3. 収　益

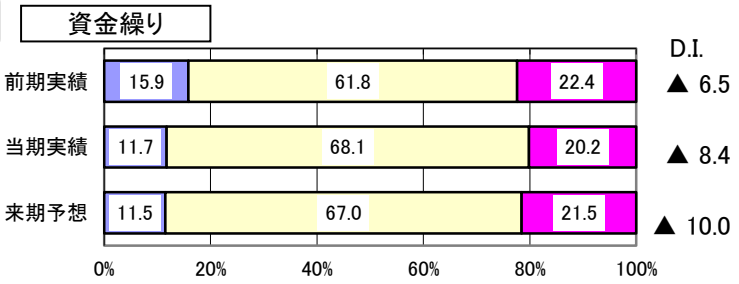
当期の収益判断D.I.は▲16.6と、対前期比14.3ポイントの2桁低下となりました。業種別に見ると、サービス業はマイナス水準ながらも改善となりました。他の業種についてはすべて低下となり、製造業、建設業は20ポイント超の大幅な低下となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲13.7と、1～3月期から6.0ポイントの低下となりました。全業種の来期予想D.I.は▲11.4と、マイナス水準ながらも、収益は改善する見込みです。



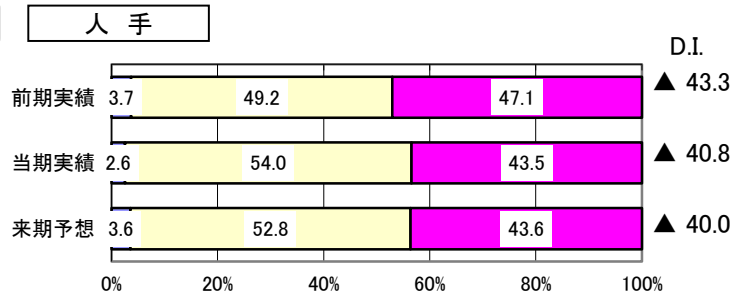
## 4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は▲8.4と、対前期比1.9ポインとの小幅低下となりました。業種別に見ると、卸売業、サービス業、建設業はマイナス水準ながらも改善となりましたが、他の業種は低下となりました。全業種の来期予想D.I.は▲10.0と、資金繰りは小幅ながらさらに低下する見込みです



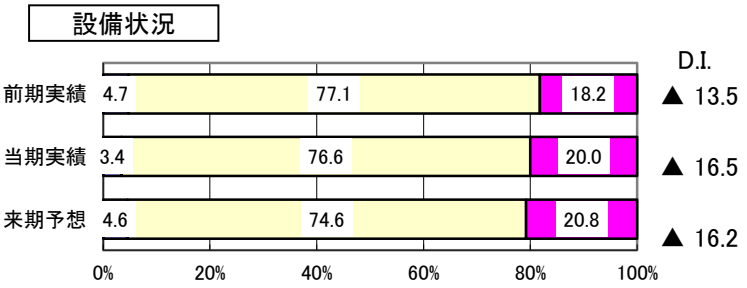

## 5. 雇　用

当期の雇用状況判断D.I.は▲40.8と、対前期比2.5ポイントの小幅改善となりましたが、依然として厳しい水準となりました。業種別に見ると、卸売業、小売業以外は改善となりましたが、厳しい状況に変わりはありません。全業種の来期予想D.I.は▲40.0と、ほぼ横ばいの見込みです。




## 6. 設備状況

当期の設備状況判断D.I.は▲16.5と、対前期比3.0ポイントの小幅低下となりました。全業種の来期予想D.I.は▲16.2と、不足感はほぼ横ばいの見込みです。




### 景気動向調査の結果について

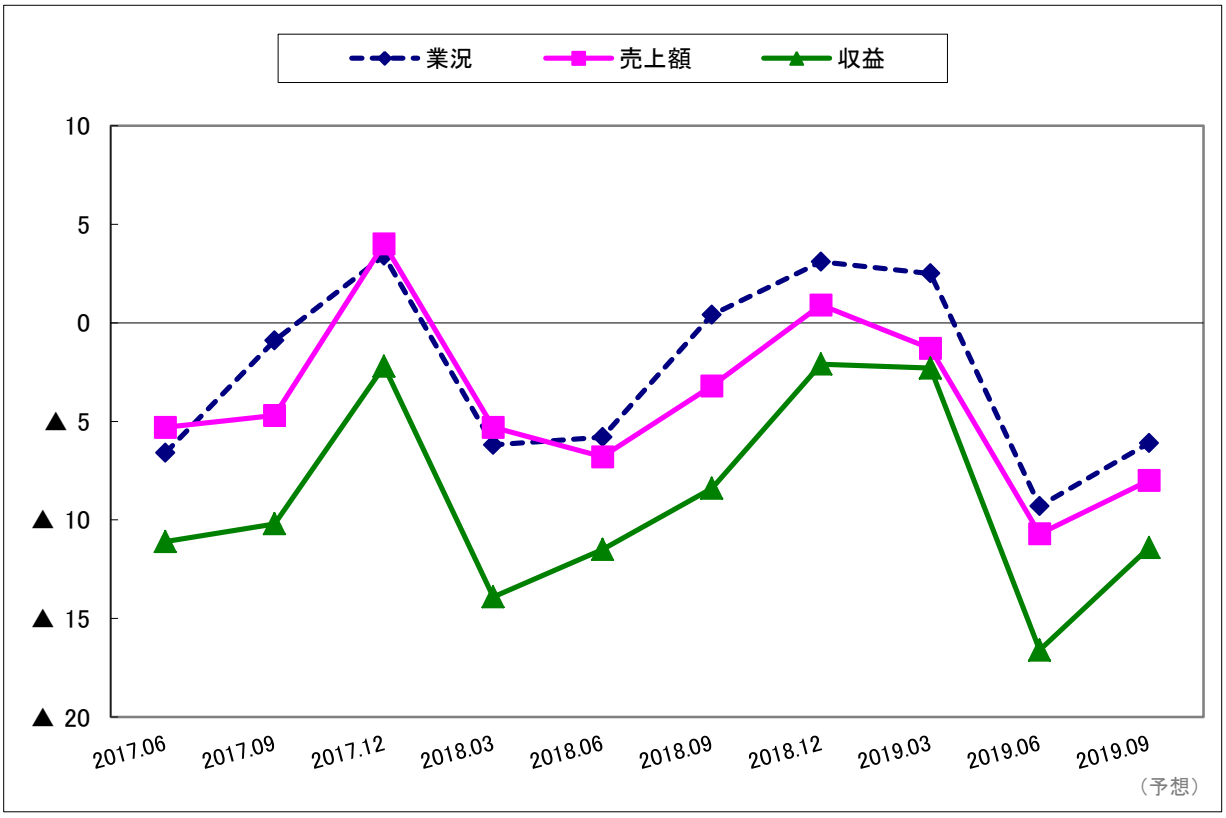
全国の景況感については、内閣府発表の景気動向指数（2019年4月分）において、「一致指数の基調判断：景気動向指数は悪化を示している。」とあり、前月判断を据え置いています。景気動向指数の判断における「悪化」とは、景気後退局面にある可能性が高いことを示すものですが、前月比0.8ポイント上昇しているものの上昇幅が基調判断の修正基準に達していないため据え置かれています。景気ウォッチャー調査（2019年5月分）においても前月判断が据え置かれています。しかしながら、景気ウォッチャー調査では家計・企業・雇用すべてのDIが低下し、前月比1.2ポイント下落しています。

神奈川県の景況感については、日本銀行横浜支店発表の神奈川県金融経済概況（2019年5月分）において、「概況：海外経済の減速の影響がみられるものの、緩やかに拡大している。」と前月判断を据え置いています。しかしながら、2019年3月分以前はなかった「海外経済の減速の影響がみられるものの」という文言が4月分より追加されています。さらに「実体経済（1）輸出」については、4月時点にておいて、「このところ弱い動きになっている」へと2017年12月以降初めて下方修正しています。

今回の当金庫実施景気動向調査の当期実績（4月～6月）においては、不動産業の資金繰りを除く全項目においてマイナス水準となりました。とくに業況および売上額については前回調査の来期予想ではプラス水準を予想していましたが、収益も含め前回調査予想と比較して10ポイント程度と大きく悪化していることから、当金庫営業エリアのお客さまも景気の弱含みを感じていると思われる結果となりました。

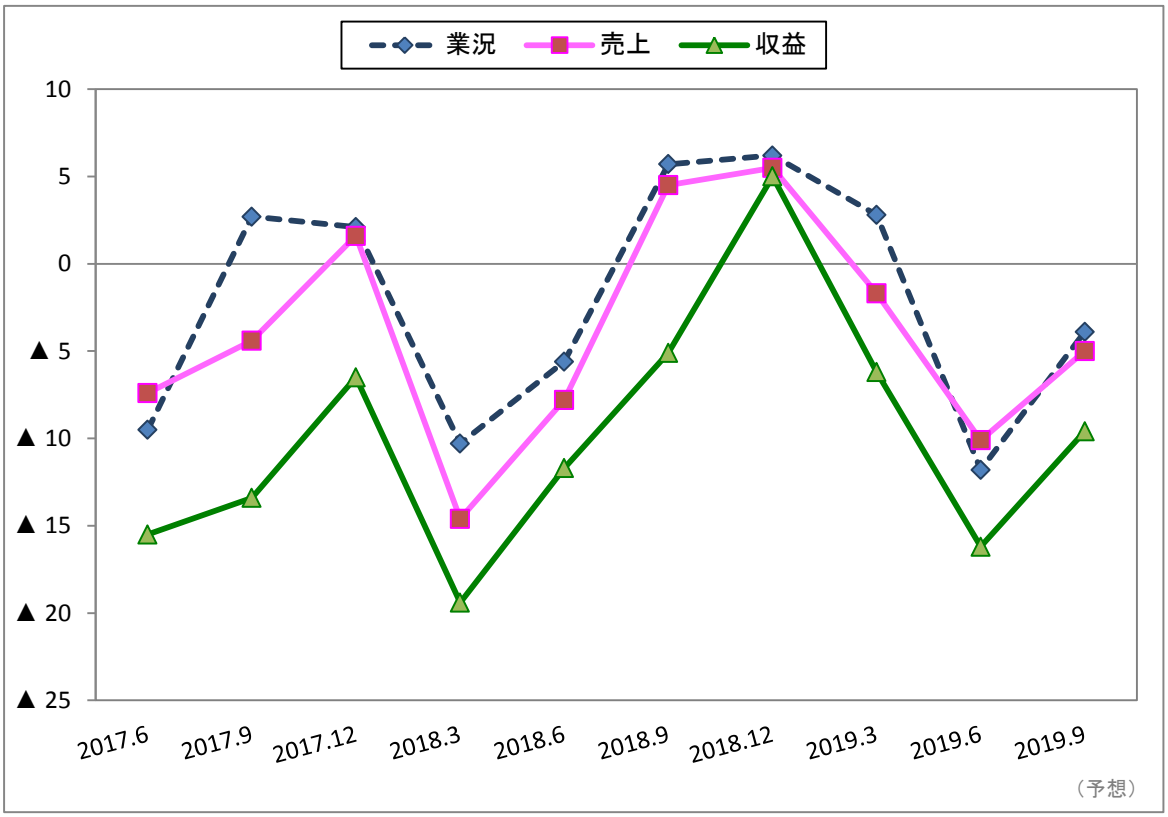
今回調査の来期予想（7月～9月）は、マイナス域ながら業況等改善が見込まれます。

## 業況・売上額・収益D.I.の推移

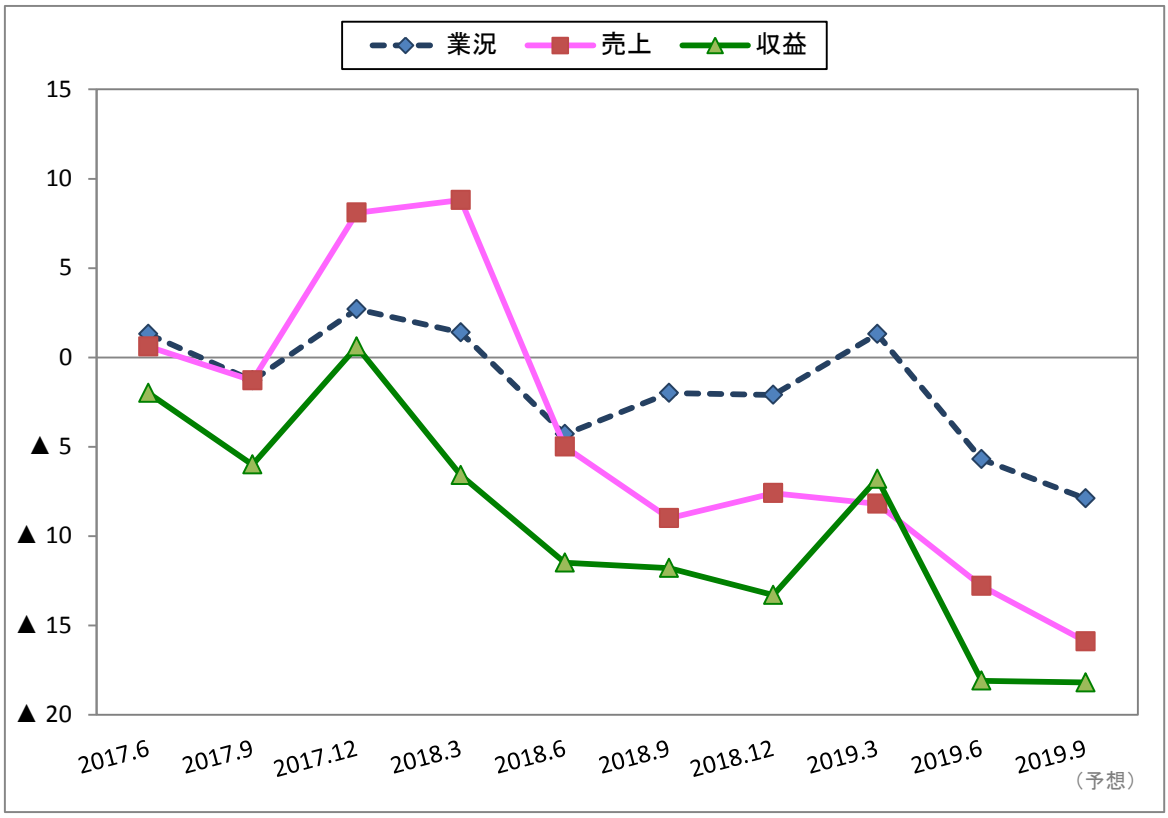



## 地区別の業況・売上・収益の推移

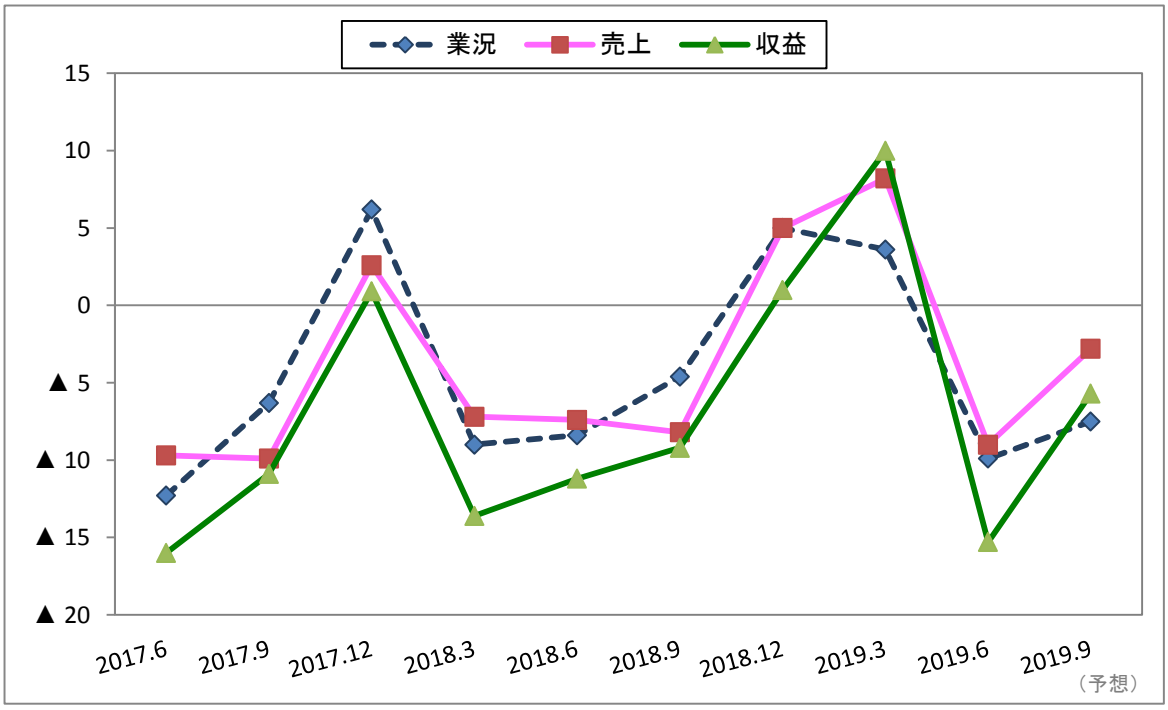
横須賀地区



横浜地区

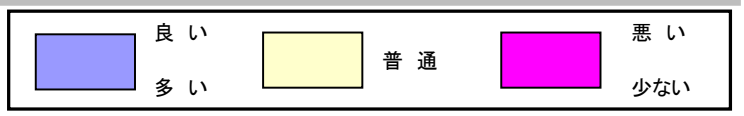

業況
売上
収益
15
10
5
0
▲ 5
▲ 10
▲ 15
▲ 20
2017.6
2017.9
2017.12
2018.3
2018.6
2018.9
2018.12
2019.3
2019.6
2019.9
（予想）

藤沢地区


業況
売上
収益
15
10
5
0
▲ 5
▲ 10
▲ 15
▲ 20
2017.6
2017.9
2017.12
2018.3
2018.6
2018.9
2018.12
2019.3
2019.6
2019.9
（予想）

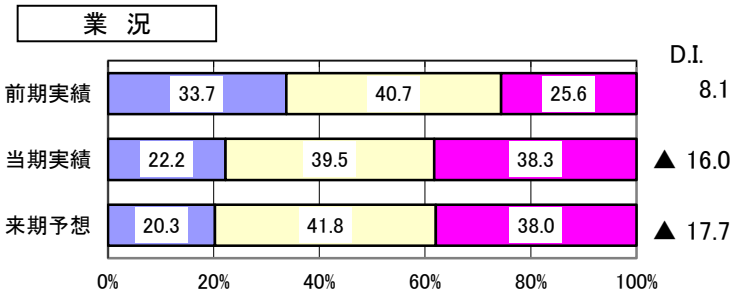
# 製 造 業

当期実績（2019年4 ～ 6月期実績）
来期予想（2019年7 ～ 9月期予想）



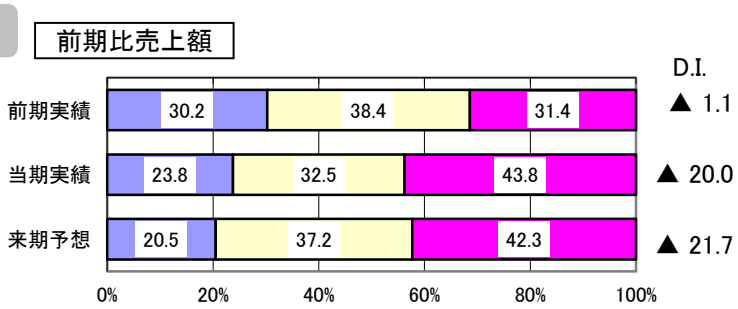

## 1. 業　況

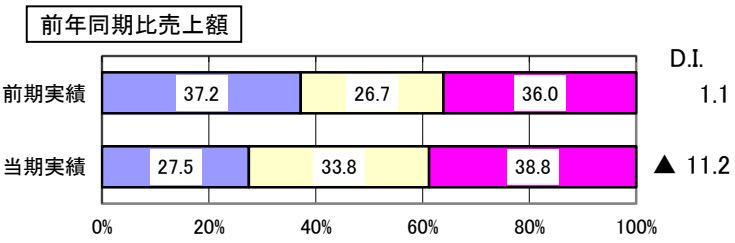
当期の業況判断D.I.は▲16.0と、対前期比24.1ポイントの大幅低下となり、全業種の中で最も低下幅が大きな業種となりました。来期予想については、D.I.は▲17.7と、業況はさらに小幅低下する見込みです。




## 2. 売 上 額

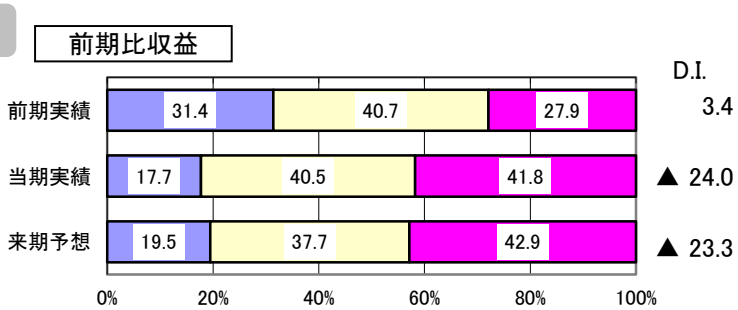
当期の売上額判断D.I.は▲20.0と、対前期比18.9ポイントの2桁低下となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲11.2と、1～3月期から12.3ポイントの2桁低下となり、マイナスに転じました。来期予想については、D.I.は▲21.7と、売上はさらに小幅低下し、全業種の中で最も低い水準となる見込みです。

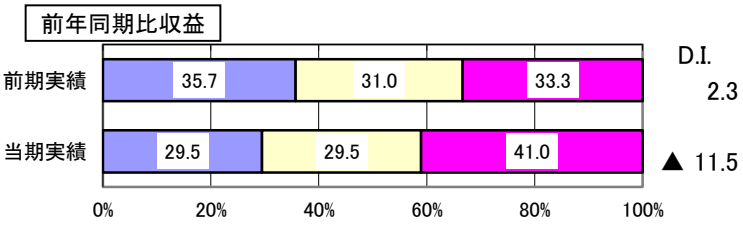



## 3. 収　益

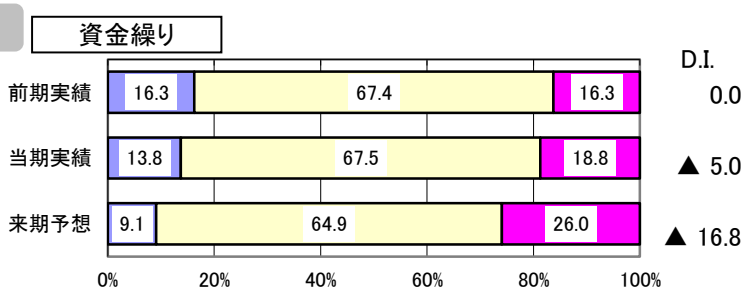
当期の収益判断D.I.は▲24.0と、対前期比27.4ポイントの大幅低下となり、マイナスに転じ、全業種の中で最も低い水準となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲11.5と、1～3月期から13.8ポイントの2桁低下となり、マイナスに転じました。来期予想については、D.I.は▲23.3と、小幅改善となるものの、全業種の中で最も低い水準となる見込みです。



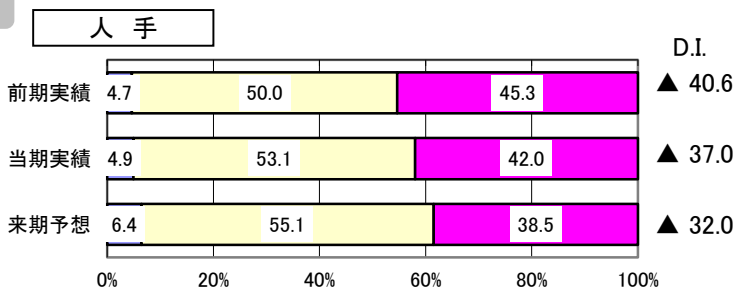
## 4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は▲5.0と、対前期比5.0ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲16.8と、資金繰りはさらに2桁低下する見込みです。



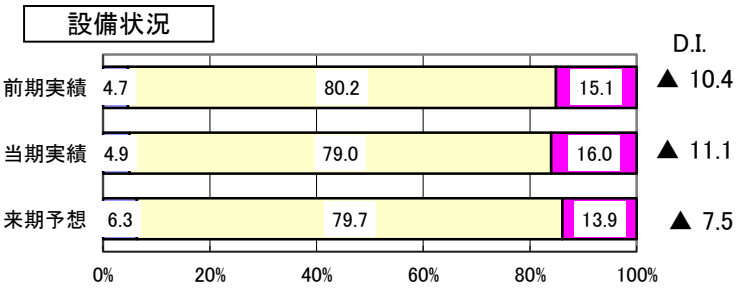

## 5. 雇　用

当期の雇用判断D.I.は▲37.0と、対前期比3.6ポイントの小幅改善となりました。来期予想については、D.I.は▲32.0と、人手不足感は緩和はするものの、依然として厳しい水準となる見込みです。




## 6. 設備状況

当期の設備状況判断D.I.は▲11.1と、対前期比0.7ポイントの小幅低下となりました。来期予想については、D.I.は▲7.5と、不足感は小幅ながらさらに緩和する見込みです。

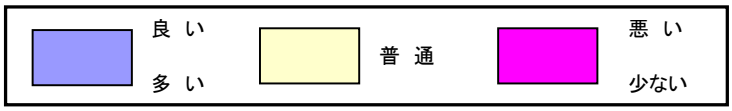



## 調 査 先 の コ メ ン ト

○ 失速感は否定できないものの、年末に向け案件はいただけている状態です。
○景気については米中間の貿易摩擦による影響が出てくると予想されるが、20%減程度の推移で復調（回復）できれば乗り切れると考えている。
○ オリンピック後の工事工程表が出てこない。東京周辺のゼネコン系工事が止まる確率が高く、少し不安である。
○米中の貿易戦争の行方、日本経済への影響への懸念、また、韓国やアジア経済圏にもたらす影響も危惧しています。当社は貿易とは関係ないため心配はしていないが、周りが悪化していくと全体のムード（モチベーションが下がる）が悪くなるため心配しています。政府（内閣府）の発表にもあるように、「緩やかな回復」をしていると思われるが、先行き不透明感があるのと、一刻一刻変化していくため傷口が大きくならないことを願っています。
○景気動向を製造業からの目線で見ると確実に落ちて来ている。対策として、当社では効率化を全ての業務で見直し、ITを含め実現（チャレンジ）していくと決めた。
○例年、上期の前半は作業量が提示されているが、発番が遅れているため出庫量が前半は少ない状況である。
○アパートの建築が減少している。

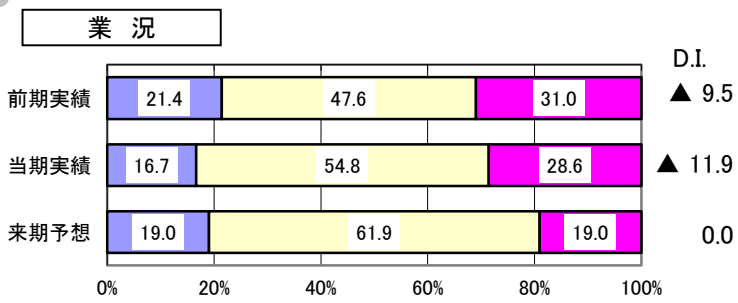
# 卸 売 業

当期実績（2019年4 ～ 6月期実績）
来期予想（2019年7 ～ 9月期予想）



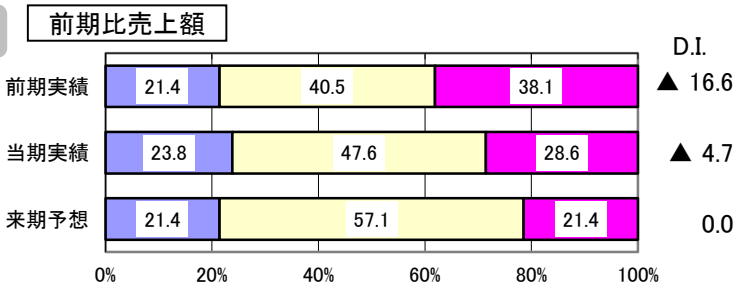

## 1. 業　況

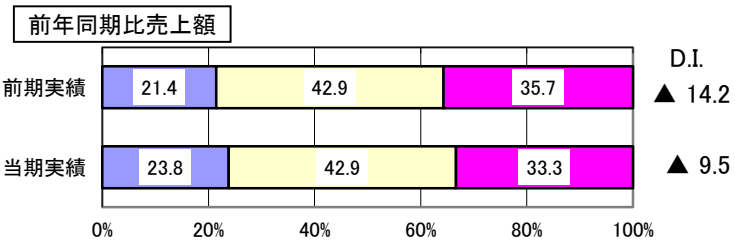
当期の業況判断D.I.は▲11.9と、対前期比2.4ポイントの小幅低下となりました。来期予想については、D.I.は0.0と、業況は再び2桁改善する見込みです。




## 2. 売 上 額

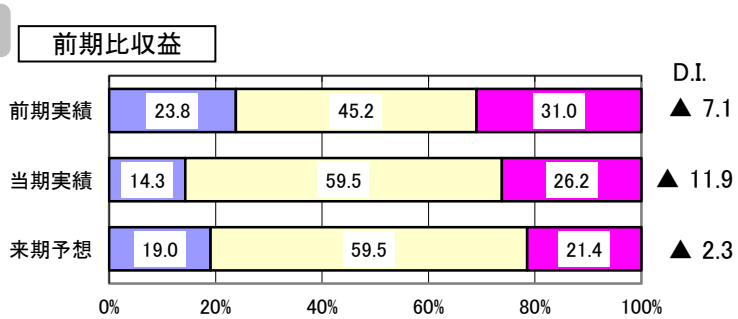
当期の売上額判断D.I.は▲4.7と、マイナス水準ながら、対前期比11.9ポイントの2桁改善となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲9.5と、1～3月期から4.7ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は0.0と、売上はさらに改善する見込みです。

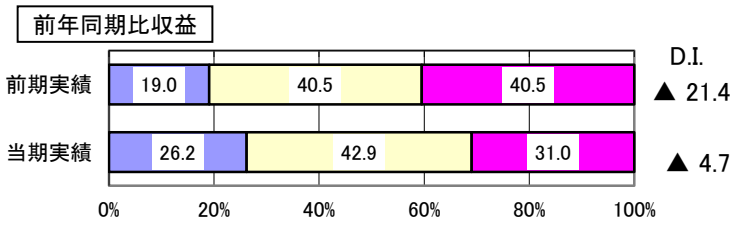



## 3. 収　益

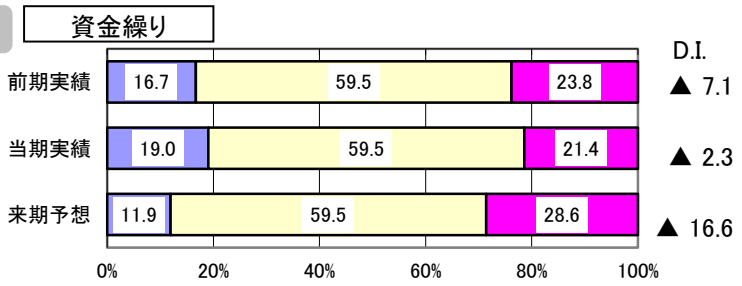
当期の収益判断D.I.は▲11.9と、対前期比4.8ポイントの低下となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲4.7と、1～3月期からマイナス水準ながら、16.7ポイントの2桁改善となりました。来期予想については、D.I.は▲2.3と、収益は改善する見込みです。



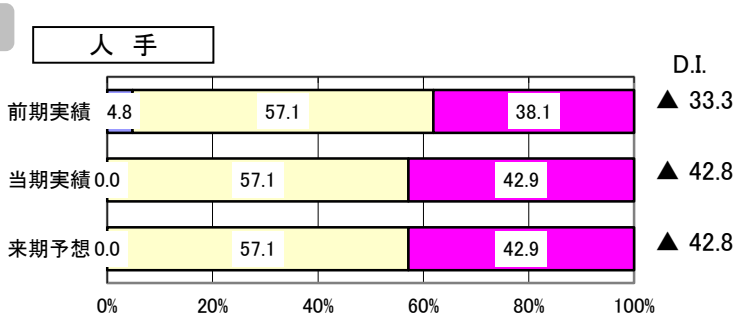
## 4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は▲2.3と、対前期比4.8ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲16.6と、資金繰りは再び2桁低下する見込みです。



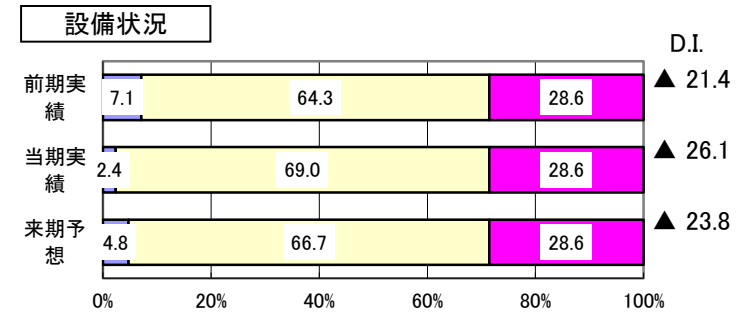

## 5. 雇　用

当期の雇用判断D.I.は▲42.8と、対前期比9.5ポイントの低下となり、建設業に次いで人手不足感が強い業種となりました。来期予想については、D.I.は▲42.8と横ばいで、依然として厳しい水準が続く見込みです。




## 6. 設備状況

当期の設備状況判断D.I.は▲26.1と、対前期比4.7ポイントの低下となり、全業種の中で最も低い水準となりました。来期予想については、D.I.は▲23.8と、不足感は小幅緩和するものの厳しい水準が続く見込みです。




## 調 査 先 の コ メ ン ト

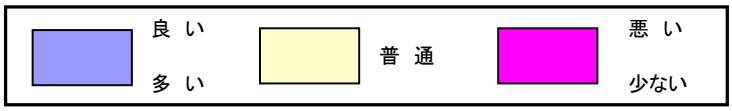
○ 日本全体では平成から令和に気分が変わり期待感が高まったような気がしている。しかし、米国と中国等の貿易問題が多く報道されて、新時代への期待感が上がる前に期待感が打ち消されている。
○ 政府がメディアを通じて景気上昇とは言っているが、現状は言うほどよくない。
○新しい仕事が軌道に乗れば、かなり売上も増加すると思われます。夏までに結論は出る予定です。

### 消費税率引上げ時に改正前の税率が適用される主な取引について

一定のものについては、消費税率10%への引上げ時に経過措置として改正前の消費税率が適用されてます（経過措置のうち、下記①～③のように消費税率引上げの半年前を「指定日」として、指定日より前に契約等を行うことを条件に、改正前の税率である8%が適用されるものがあります）。
①工事や製造の請負契約等は、指定日前に契約した場合、譲渡等が引上げ後でも8%が適用される。
②テレビ等を通じて不特定かつ多数の者を対象に行われる通信販売等は、販売価格の提示が指定日の前であれば、申込が指定日以降かつ商品販売が税率引上げ後でも8%が適用される。
③賃貸借契約等の資産の貸付は、指定日前の契約かつ税率引上げ前の貸付分は8%が適用されるが指 定日後の契約で税率引上げ前貸付分については、税率引上げ後は10%が適用となる。
④電車の定期券・映画入場料等の旅客運賃等は、税率引上げ前料金支払い分は、引上げ後も8%適用。
⑤検針により料金確定する電気料金等は、継続供給で税率引上げ後の料金確定まで8%が適用される。
⑥家電リサイクル料金は、税率引上げ料金支払い分は引上げ後の再商品化でも8%が適用される。
＊⑤のうちの灯油供給・⑥は10%時の経過措置においてのみ適用され、これら以外の経過措置もあり。
出典：中小企業庁ホームページ(http://www.chusho.meti.go.jp/)
リーフレット「中小企業・小規模事業者のための消費税転嫁の手引き」（中小企業庁）
(https:www.chusho.meti.go.jp/pamflet/pamflet/2017/170307shouhizeitebiki.pdf)を加工して作成

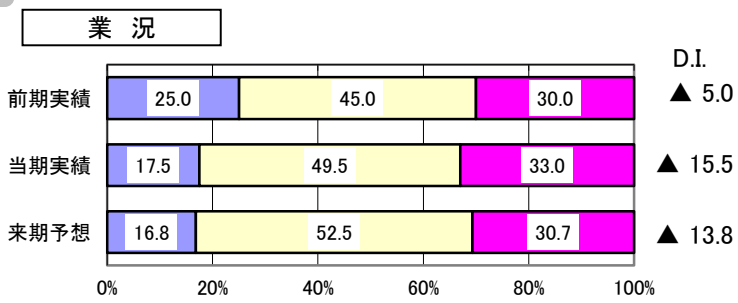
# 小 売 業

当期実績（2019年4 ～ 6月期実績）
来期予想（2019年7 ～ 9月期予想）



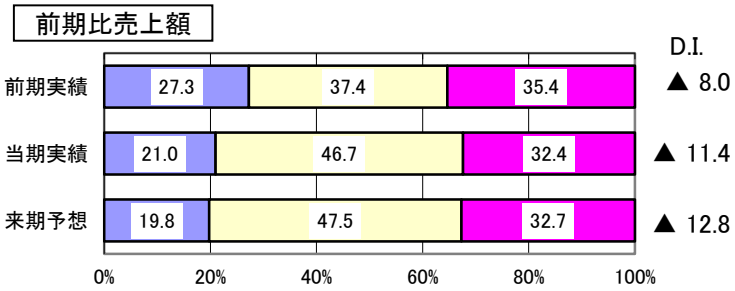

## 1. 業　況

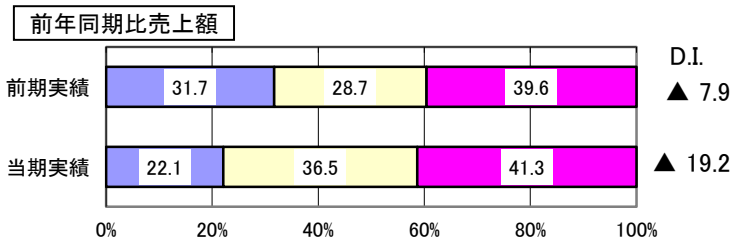
当期の業況判断D.I.は▲15.5.と、対前期比10.5ポイントの2桁低下となりました。来期予想については、D.I.は▲13.8と、業況は再び小幅改善する見込みです。




## 2. 売 上 額

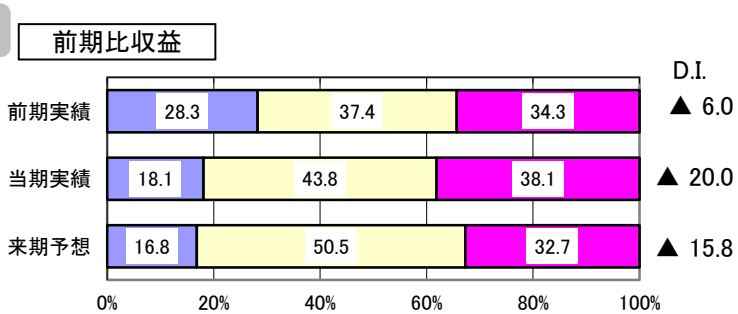
当期の売上額判断D.I.は▲11.4と、対前期比3.4ポイントの小幅低下となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲19.2と、1～3月期から11.3ポイントの2桁低下となりました。来期予想については、D.I.は▲12.8と、売上はさらに小幅低下する見込みです。

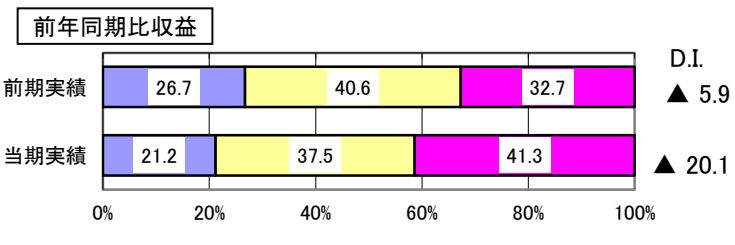



## 3. 収　益

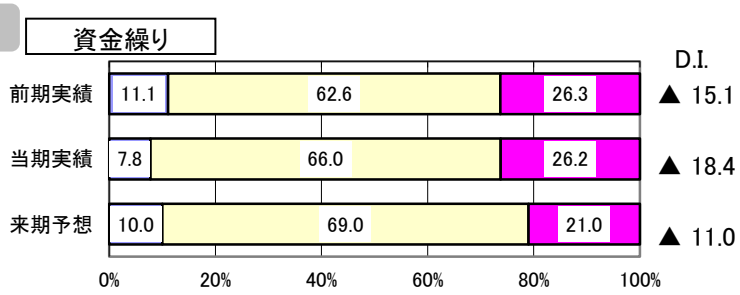
当期の収益判断D.I.は▲20.0と、対前期比14.0ポイントの2桁低下となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲20.1と、1～3月期から14.2ポイントの2桁低下となりました。来期予想については、D.I.は▲15.8と、収益は小幅改善する見込みです。



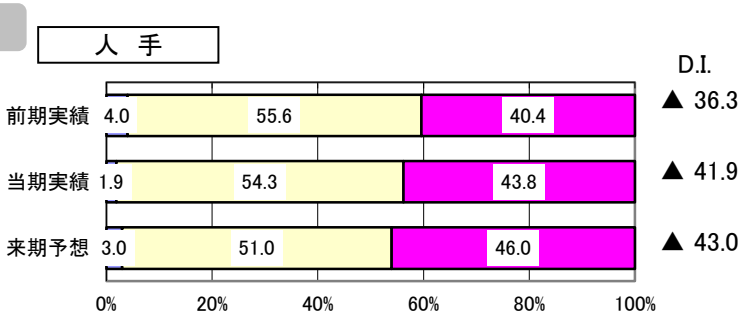
## 4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は▲18.4と、対前期比3.3ポイントの小幅低下となり、全業種の中で最も低い水準となりました。来期予想については、D.I.は▲11.0と、資金繰りは再び改善する見込みです。



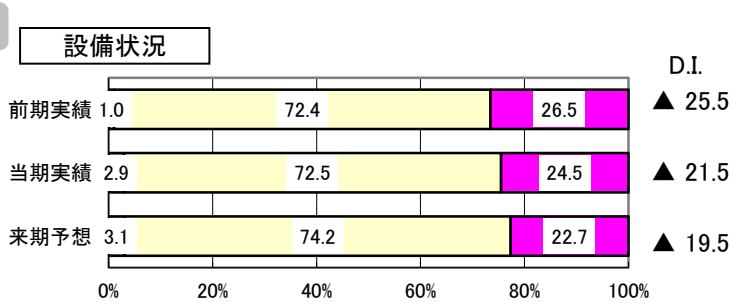

## 5. 雇　用

当期の雇用判断D.I.は▲41.9と、対前期比5.6ポイントの低下となり、厳しい水準となりました。来期予想については、D.I.は▲43.0と、人手不足感はさらに強まる見込みです。




## 6. 設備状況

当期の設備状況判断D.I.は▲21.5と、対前期比4.0ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲19.5と、不足感はさらに小幅緩和する見込みです。




## 調 査 先 の コ メ ン ト

○ 消費税増税前の各種セールを計画しているが、現在の景気から見て大きな期待はできそうにない。

○夏が去年より少し涼しいようなら売上増になると思う。去年並みだと暑すぎて、日中、人が出て来ない。

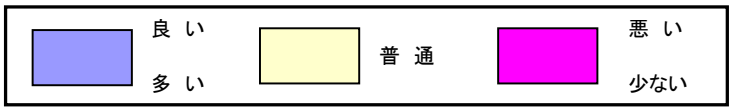
○10連休中は中小小売店にとっては従業員の人繰りや集客等、大変面倒な点が多かった。一部企画には反応があったが何らかの手を打たないと来店客は減少してしまう。

○米中の経済摩擦による影響で4～6月期においては、仕入原価があり得ない程の高騰をしたが、商品価格にフィードバックさせるのはなかなか難しい。受注が店舗により180%増と部門によりとんでもない数値となり、売上高と純利益の比率を調整するのが、とても難しい局面であったと思う。

○パン業界は夏場の売上げが下がる傾向があるので工夫が必要である。

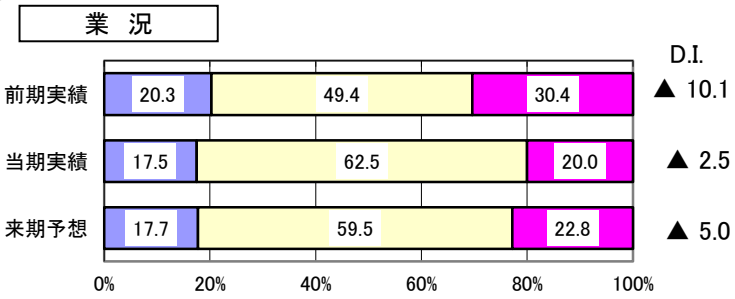
# サービス業

当期実績（2019年4 ～ 6月期実績）
来期予想（2019年7 ～ 9月期予想）



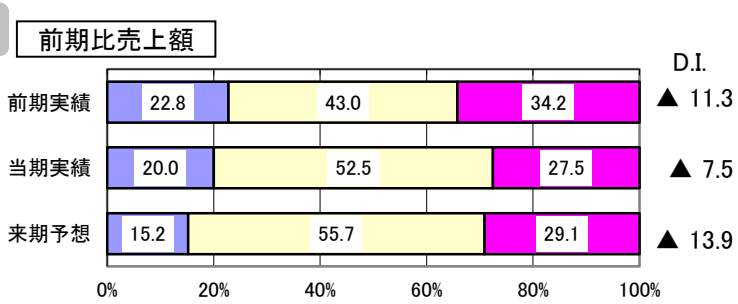

## 1. 業　況

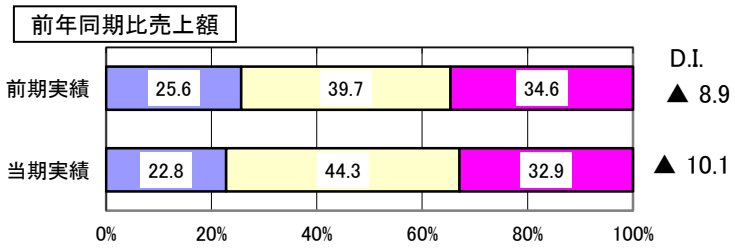
当期の業況判断D.I.は▲2.5と、対前期比7.6ポイントの改善となり、マイナス水準ながら、全業種の中で唯一の改善となりました。来期予想については、D.I.は▲5.0と、業況は再び小幅低下する見込みです。




## 2. 売 上 額

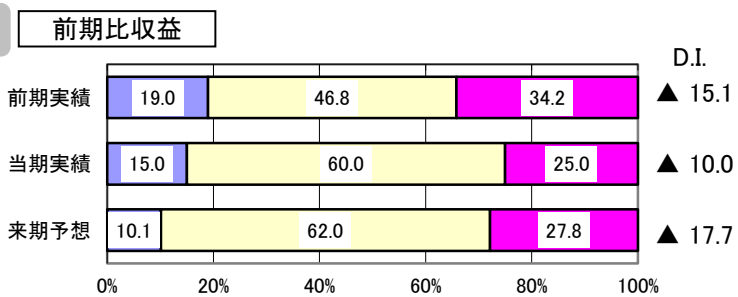
当期の売上額判断D.I.は▲7.5と、対前期比3.8ポイントの改善となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲10.1と、1～3月期から1.2ポイントの小幅低下となりました。来期予想については、D.I.は▲13.9と、売上は再び低下する見込みです。

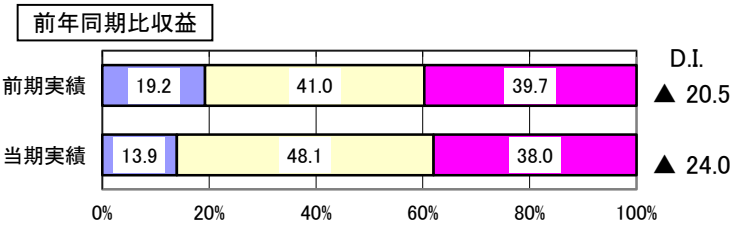



## 3. 収　益

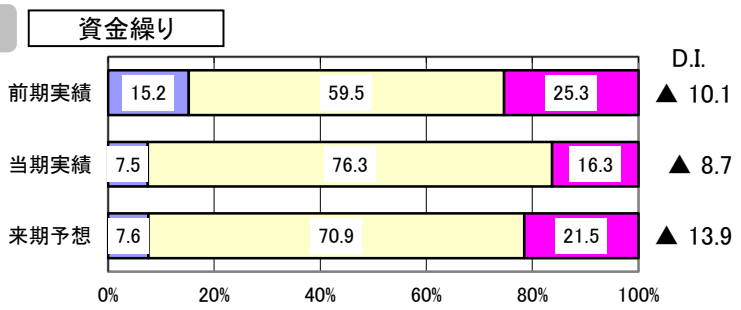
当期の収益判断D.I.は▲10.0と、対前期比5.1ポイントの改善となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲24.0と、1～3月期から3.5ポイントの小幅低下となりました。来期予想については、D.I.は▲17.7と、収益は再び低下する見込みです。



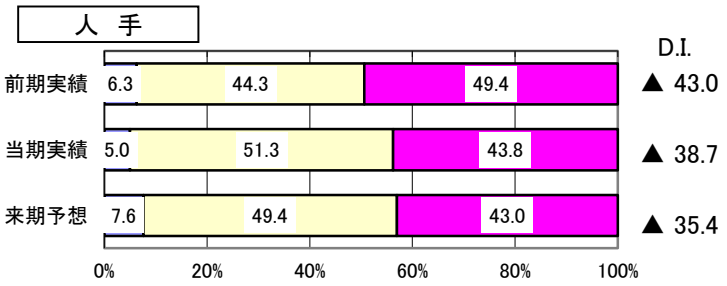
## 4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は▲8.7と、対前期比1.4ポイントの小幅改善となりました。来期予想については、D.I.は▲13.9と、資金繰りは低下する見込みです。



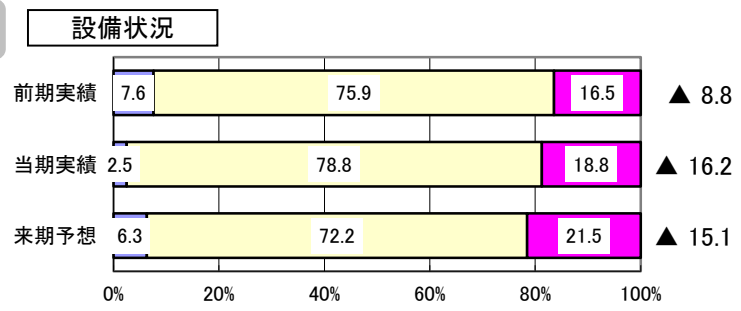

## 5. 雇　用

当期の雇用判断D.I.は▲38.7と、対前期比4.3ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲35.4と、人手不足感はさらに小幅緩和するものの、厳しい水準が続く見込みです。




## 6. 設備状況

当期の設備状況判断D.I.は▲16.2と、対前期比7.4ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲15.1と、不足感は再び小幅緩和する見込みです。




## 調 査 先 の コ メ ン ト

〇特に大きな変動と言えるものはありません。

〇景気は消費が非常に悪く、全ての中小企業が10月（消費税増税）に向けて不安であると聞きます。

〇4月以降は全体に上昇している。

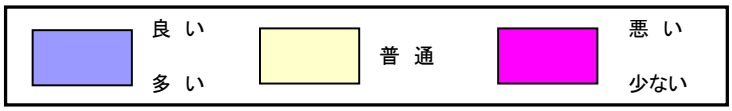
〇業況は人員の充足次第といったところです。

〇 今年度当初から（2019年4月）鉄スクラップの相場が、各電炉メーカーが円高傾向で海外から鉄スクラップを大量に仕入れたため、国内スクラップが大幅に値下げという傾向である。

〇自費治療が増加傾向です。

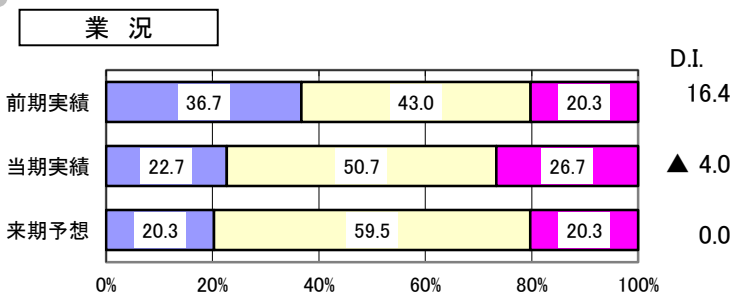
# 建 設 業

当期実績（2019年4 ～ 6月期実績）
来期予想（2019年7 ～ 9月期予想）



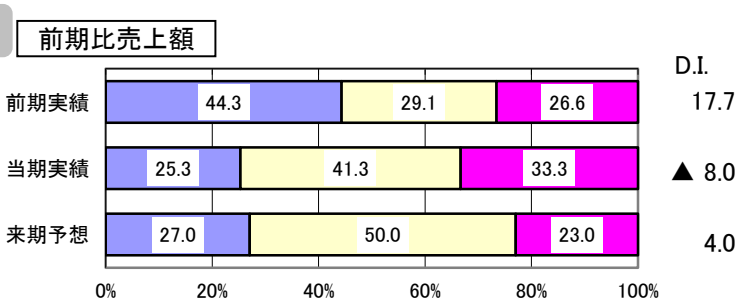

## 1. 業　況

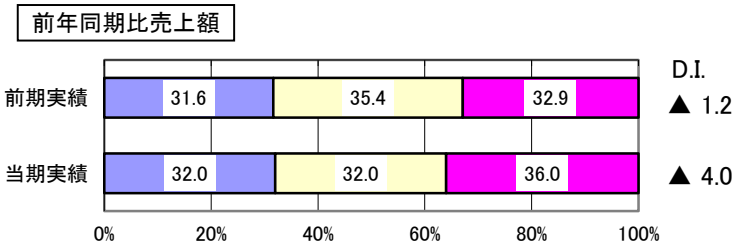
当期の業況判断D.I.は▲4.0と、対前期比20.4ポイントの大幅低下となり、マイナスに転じました。来期予想については、D.I.は0.0と、業況は改善する見込みです。




## 2. 売 上 額

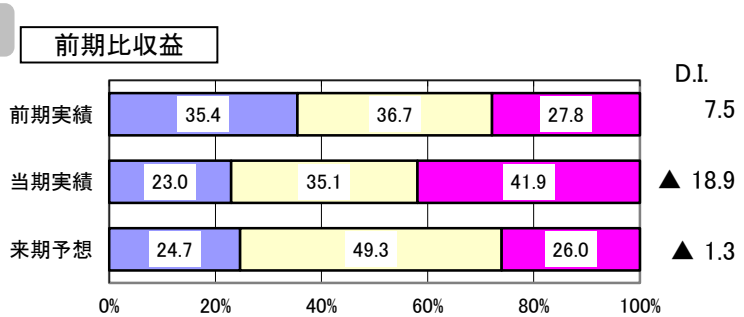
当期の売上額判断D.I.は▲8.0と、対前期比25.7ポイントの大幅低下となり、低下幅が最も大きな業種となりました。対前年同期比の売上額判断D.I.は▲4.0と、1～3月期から2.8ポイントの小幅低下となりました。来期予想については、D.I.は4.0と、売上は2桁改善する見込みです。

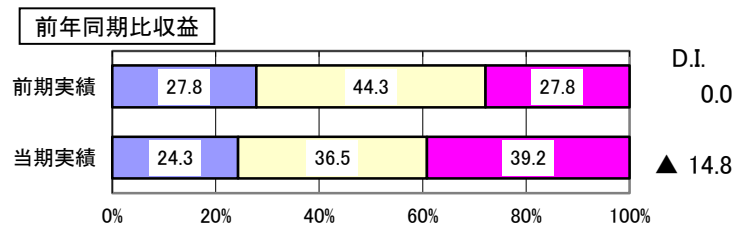



## 3. 収　益

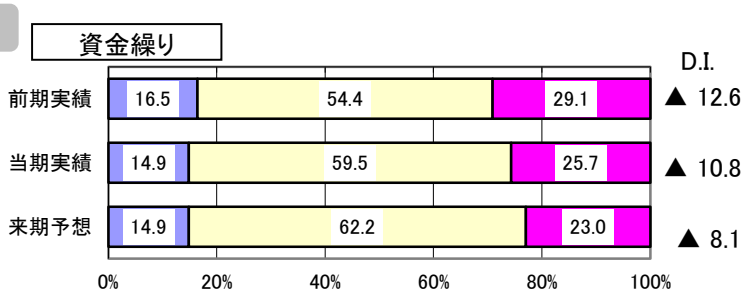
当期の収益判断D.I.は▲18.9と、対前期比26.4ポイントの大幅低下となりました。対前年同期比の収益判断D.I.は▲14.8と、1～3月期から14.8ポイントの2桁低下となりました。来期予想については、D.I.は▲1.3と、収益はマイナス水準ながらも、2桁改善する見込みです。



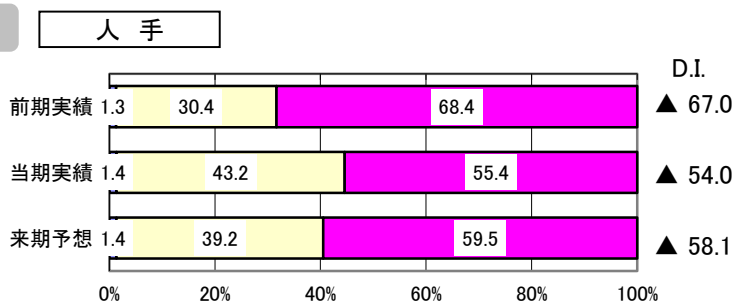
## 4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は▲10.8と、対前期比1.8ポイントの小幅改善となりました。来期予想については、D.I.は▲8.1と、資金繰りはさらに小幅改善する見込みです。



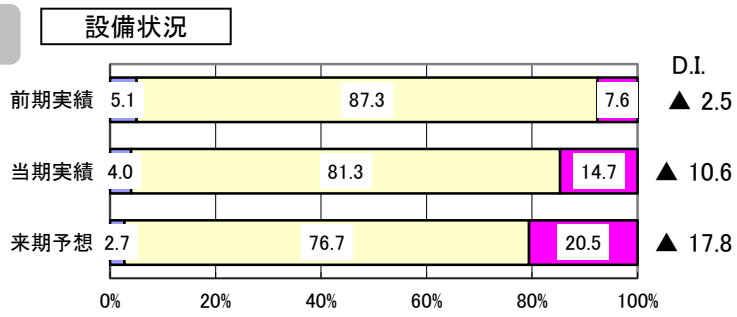

## 5. 雇　用

当期の雇用判断D.I.は▲54.0と、対前期比13.0ポイントの2桁改善となりましたが、全業種の中で最も低い水準となりました。来期予想については、D.I.は▲58.1と、人手不足感は再び強まり、厳しい水準が続く見込みです。




## 6. 設備状況

当期の設備状況判断D.I.は▲10.6と、対前期比8.1ポイントの低下となりました。来期予想については、D.I.は▲17.8と、不足感はさらに強まる見込みです。




## 調 査 先 の コ メ ン ト

〇仕事が徐々に減っている。周りも同様である。

〇今回は予想外で、当社は4月半ば頃より5月一杯は仕事が全く途絶えてしまい、社員たちに休みを取らせるわけにもいかず、自社の看板の塗装や材料資材の整理等いろいろな仕事をさせてきたが、6月に入りようやく民間工事が出てきて、やっと本格的に毎年のペースに戻ってきた。しかし、市内の仕事は何もなく、工事場所は川崎、横浜方面ばかりであり、役所の仕事も余りなく取れない。

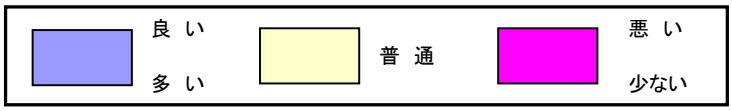
〇 受注は好調ですが天候に左右される業種なので、今年のような10連休があると売上が減ってしまいます。国が休日に関与し過ぎると思う。

〇10月の消費税増税以降が不安なため設備投資はしない予定である。

〇仕事依頼の量に対して、人手不足の問題で現実に仕事にならないので売上につながらない。しかし、増加した仕事見積をこなす手間は増えているので、現実はより厳しい印象である。

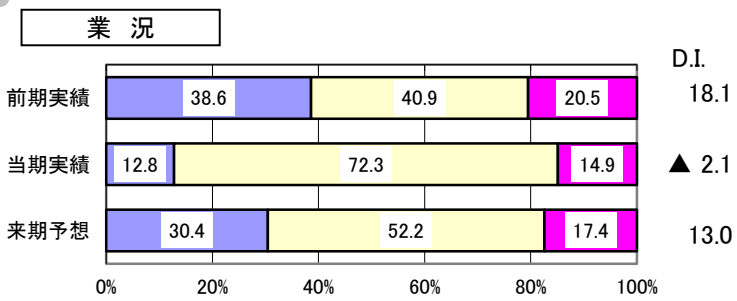
# 不動産業

当期実績（2019年4 ～ 6月期実績）
来期予想（2019年7 ～ 9月期予想）



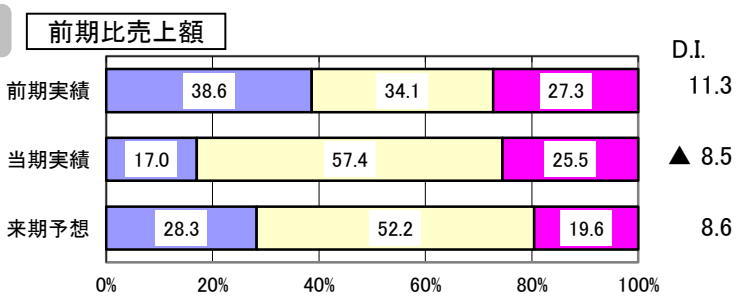

## 1. 業　況

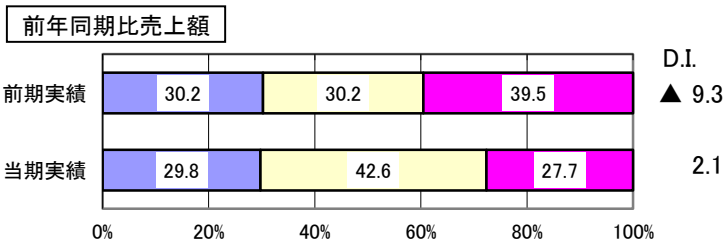
当期の業況判断D.I.は▲2.1と、対前期比20.2ポイントの大幅低下となり、マイナスに転じました。来期予想については、D.I.は13.0と、業況は再び2桁改善となりプラスに転じる見込みです。




## 2. 売 上 額

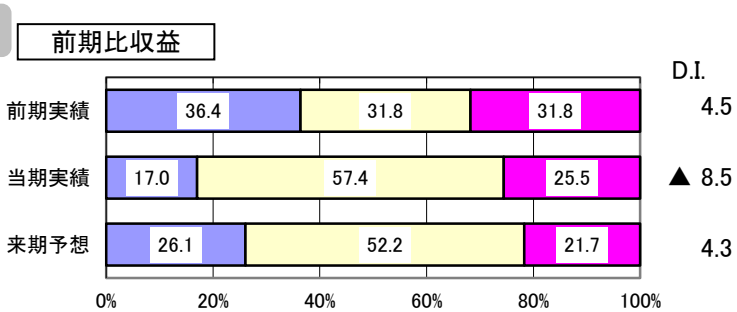
当期の売上額判断D.I.は▲8.5と、対前期比19.8ポイントの大幅低下となり、マイナスに転じました。対前年同期比の売上額判断D.I.は2.1と、1～3月期から11.4ポイントの2桁改善となりました。来期予想については、D.I.は8.6と、売上は再び2桁改善となりプラスに転じる見込みです。

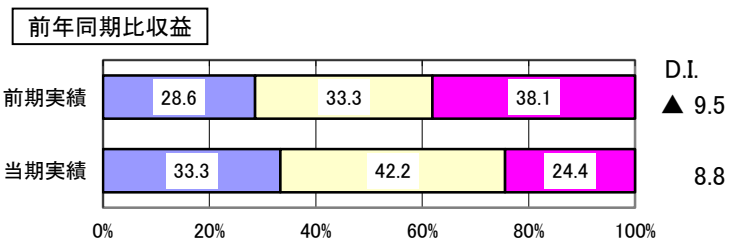



## 3. 収　益

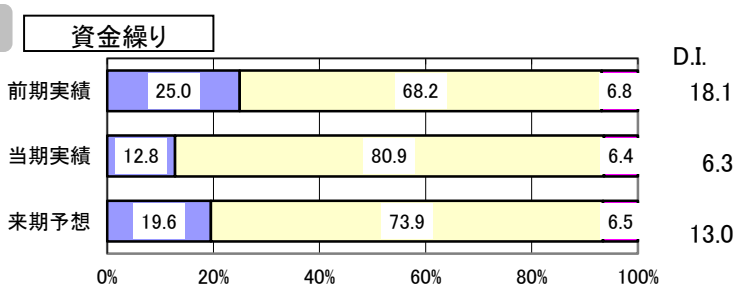
当期の収益判断D.I.は▲8.5と、対前期比13.0ポイントの2桁低下となり、マイナスに転じました。対前年同期比の収益判断D.I.は8.8と、1～3月期から18.3ポイントの大幅改善となりました。来期予想については、D.I.は4.3と、収益は2桁改善となりプラスに転じる見込みです。



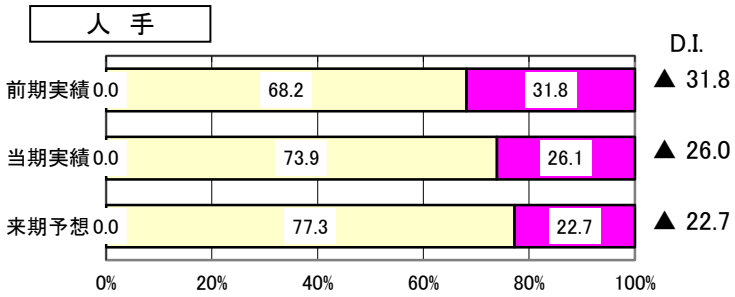
## 4. 資金繰り

当期の資金繰り判断D.I.は6.3と、対前期比11.8ポイントの2桁低下となりましたが、プラス水準を維持しました。来期予想については、D.I.は13.0と、資金繰りは再び改善する見込みです。




## 5. 雇　用

当期の雇用判断D.I.は▲26.0と、対前期比5.8ポイントの改善となりました。来期予想については、D.I.は▲22.7と、マイナス水準ながらも、人手不足感はさらに緩和する見込みです。




## 調 査 先 の コ メ ン ト

〇秋以降に景気状況が悪化する予測があるので、物件の仕入れ判断を慎重に見極めています。
〇不動産業界の活況にも、ようやく陰りを感じます。
〇取引状況は少しづつではあるが上向き傾向にあり広告等の問い合わせも増えています。土地の価格も昨年よりも下がっていますが、高額物件は相変わらず厳しい状況が続いています。
〇 銀行のプロジェクト融資が厳しいみたいです。
〇4月に入り、湘南エリアへ足を運ぶ人が増えてきましたが、物件を探しに来ているかという意味では、GW10連休中は、天皇陛下の退位等があったことも影響してか集客は思いのほか伸び悩み、連休明けから少しづつではありますが、物件を探しに来られる方の動きが出てきたというのが実情です。また、消費税増税の影響については、景気対策（優遇制度）の方向性が見えてきたこともあり、心理的な物件の買い控えは一時に比べ落ち着いてきた感じがしています。オリンピックに向けての施設整備等による人材機材不足も、影響はさほど感じられませんが、昨今の異常気象で連日の気温の高い日が続いたりして、集客への影響が予想されるので、よりいっそう地域の同業者とも連携し、集客活動には日々鋭意努力していかなければならないと思っています。
〇不動産及び建築請負関係においては、本年10月よりの消費税10%引上げに対し、3月末日までの建築請負契約は8%のため駆け込み契約が発生し、4月～5月は不動産（特に土地）の動きが減少している。需要はまだあると思われ るので7月頃より活発に動くものと思われます。

## 天候の個人消費への影響について

5月下旬は全国的に真夏日や一部地域では猛暑日になりました。特に北海道の佐呂間町では39度以上を観測しました。これはジェット気流やフェーン現象等の要因が重なった結果とのことで、5月24日発表の気象庁3か月予報（6月～8月）によれば、太平洋高気圧の本州付近への張り出しが弱いため、北・東・西日本では7月と8月は前線や湿った空気の影響を受けやすく平年に比べ曇りや雨の日が多く、3か月間降水量は平年並みか多い見込みで、3か月平均気温はほぼ平年並の見込みとの見通しです。

この天候を要因として個人消費に与える影響を分析すべく、日本全体の天候を包括的に表す指標として都道府県ごとの天候データを人口で加重平均した「マクロ・ウェザー・インデックス」を作成し分析を行った”日銀レビュー「天候データを用いた個人消費の分析」”があります。

このレビューでは、天候要因として、①降水量、②夏場（5月～8月）の気温、③冬場（11月～1月）の気温の平年差が個人消費に与える影響を分析しており、下記のような結果を導き出しています。

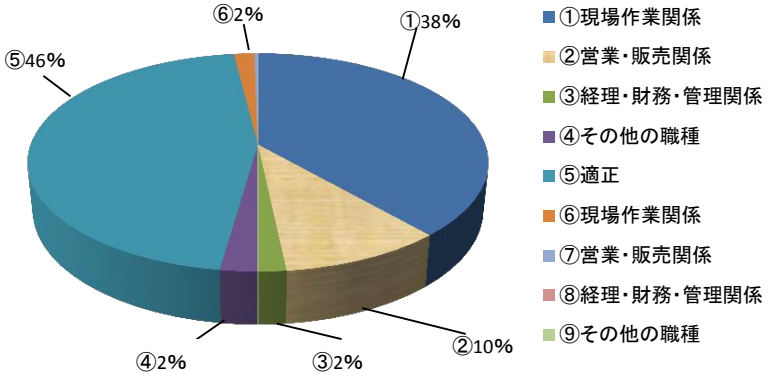
＜プラス影響＞夏場の気温上昇：消費活動全体・耐久財・家電・非耐久財・衣料品・タクシー・外食
冬場の気温低下：家電・飲食料品・衣料品、冬場の気温上昇：娯楽、降水量の増加：タクシー
＜マイナス影響＞降水量の増加：自動車・非耐久財・飲食料品・衣料品・外食・旅行・娯楽
冬場の気温上昇：非耐久財・飲食料品・衣料品

出典：日本銀行ホームページ(https://www.boj.or.jp/index.html/)日銀ﾚﾋﾞｭｰ「天候ﾃﾞｰﾀを用いた個人消費の分析」（日本銀行）
(https://www.boj.or.jp/research/wps_rev/rev_2019/data/rev19j01.pdf)を加工して作成
出典：気象庁ホームページ(http://www.jma.go.jp/jma/kishou/info/coment.html/)「向こう3か月の天候見通し」6月～8月（気象庁）
(http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/pdf/pdf3/001.pdf)を加工して作成

## 特別調査　・・・「中小企業における人手不足の状況と働き方改革への対応について」

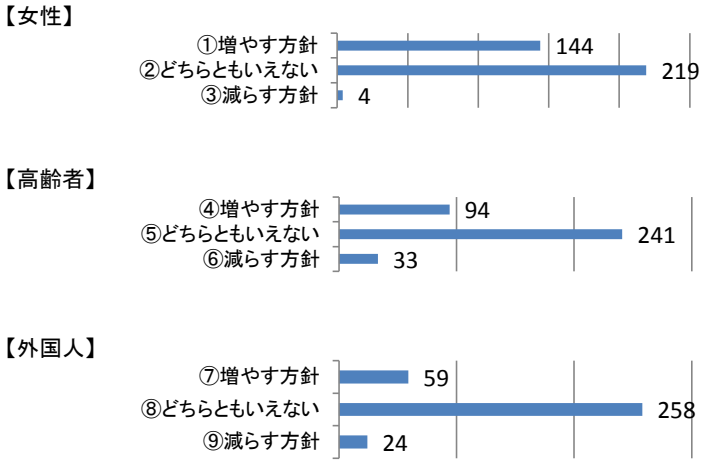
①御社では、最近顕在化しつつある人手不足の状況をどのように認識していますか。人手が不足している場合、過剰している場合、それぞれ過不足のある職域をお答えください。

人手不足の状況については、⑤「適正」との回答が46%と最も多かった。次いで①「現場の作業関係」の不足が38%、②「営業・販売関係」の不足が10%であった。人手が過剰との回答は、⑥「現場作業関係」が2%であった。



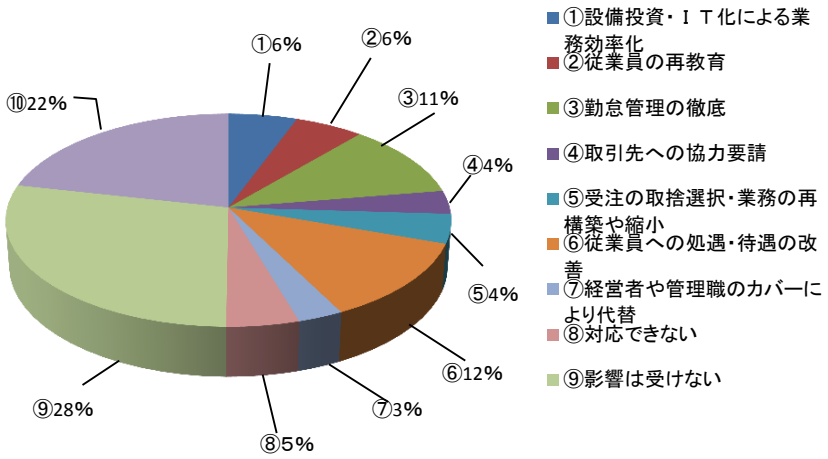

②御社では、人手不足で採用が困難になりつつあるなか、女性、高齢者、外国人の活躍推進それぞれについて、今後、どのようにお考えですか。

女性、高齢者、外国人の活躍推進については、「増やす方針」との回答では、女性が144社と最も多く、高齢者が94社、外国人が59社であった。「減らす方針」については、高齢者が33社と最も多く、外国人が24社、女性が4社であった。女性の活躍を期待している会社が多い結果となった。




③御社では、働き方改革が求めている「時間外労働の上限規制」や「有給休暇取得の義務化」による影響を受けますか。

働き方改革による影響については、⑨「影響を受けない」が28%と最も多く、⑩「よくわからない」との回答も22%と多かった。影響を受けている場合、現在取り組んでいる、もしくは今後取り組もうとしている対応は、⑥「従業員への処遇・待遇の改善」が12%と最も多く、次いで③「勤怠管理の徹底」が11%と多かった。⑧「対応できない」との回答も5%あった。



# お客さま景況インタビュー

インタビュー日付
2019 年 6 月 6 日

## 有限会社　た の し 屋 本 舗　（店舗名：うれしたのし屋他）

代　表　者：代表取締役　下澤　敏也
本社所在地：神奈川県横須賀市追浜町３－３８
創　　業：平成９年３月１８日
営 業 種 目：飲食店経営（三浦半島の地魚・地野菜をメインとした美味しい飲食全般）

同社は、横須賀市及び横浜市の６店舗において、三浦半島の美味しいものの提供を通じて、三浦半島の魅力をより多くの人に伝えることを目指しています。更なる美味しいもののために、代表者・スタッフ一同が半島を駆け回り、生産者の方々と一緒に作業も行っています。三浦半島ならではの「食」の発見・生産・存続を通じ、「八方よし」（「三方よし」を、ステークホルダーも多くなり、複雑となった現在の経営環境に合致させた考え方）の経営を心掛けています。同社のフィールドは店舗内にとどまらず、大きく広がっていくと思われます。

**――【貴社の現況】**

当社は、１９９７年に開業しましたが、現在の営業スタイルのスタートは、三浦半島が「食の宝の山」であることに気づいた瞬間からだと思っています。もしかしたらこの時こそが当社の真の創業なのかも知れません。それから２０年余り、三浦半島をガムシャラに駆け回り、走り続けてきた結果、生産者の方々をはじめとした多くの人に出会えました。開業時には１店舗だった店舗も現在は６店舗まで増えており、より多くのお客様に対して、三浦半島の魅力を発信出来ていると思います。

**――【貴社の強み】**

これまでも、そして間違いなくこれからも「人」と「三浦半島」が当社の強みであり、貴重な資源です。当社が目指す明るく楽しい未来の実現に、必要不可欠である「前進する力」の源泉です。「人」とはお客様だけでも、生産者さんだけでも、スタッフだけでもありません。商店街の仲間、国の認定を頂いた「地域産業資源活用事業計画」のような同業者・異業種業者との連携等、当社を取り巻く沢山の人とのつながりが、当社の「今」を作っていると思います。続いて、連携から生まれた成果の一つである【猿島わかめ】ブランディングプロジェクトを紹介させて頂きます。この活動は「猿島海畑活性化研究会」を異業種連携により立ち上げて、三浦半島の失われつつある名品の一つである【猿島わかめ】の再生を目指したものです。本来ならば５ｍ程度まで成長させた後に収穫する、同わかめの早採りした若葉を「さるひめ」と命名しました。「さるひめ」の柔らかさ・鮮度の良さという特徴を生かして商品化をすすめてきました。その結果、７年前の発売当初には３店舗だった「さるひめ」を取扱う飲食店さんも、現在２５店舗ほどに増加しています。地域に根差したブランド構築に繋げることが出来たと実感しています。

**――【今後の展望】**

大きな目標であり、「夢」という表現に近いものかもしれませんが、三浦半島に「食のテーマパーク」を作りたいと思っています。実現には広範囲で強力な連携が必要不可欠なので、生産者さんにはいままで以上の協力をお願いしていきます。加えて、私自身も新しい農業の形を目指し、2016 年に「農業生産法人（株）ヨコスカアグリファミリー」を設立しました。横須賀商工会議所と連携したプロジェクトで、次世代育成も行っています。また、2019 年 6 月の開催で第 7 回を迎える「三浦半島大収穫祭」を縁として取引が始まった同業者との連携も強化していきます。「食」と「観光」の親和性を高めるべく異業種間の連携も強化し、地域の活性化にもつなげていきたいと考えています。「ジャパン・グレートビア・アワード 2019」で金賞を頂いたビール開発のように、三浦半島の食材で新しい「食の宝」を産み出すことも続けていきます。これらの活動が、一歩一歩「夢」の実現に繋がると信じています。

編集・発行
かながわ信用金庫　地域総合研究所
〒231-0032
横浜市中区不老町 1-3
TEL ： 045-263-6363（平日 9:00～17:00）
URL ： http://www.shinkin.co.jp/kanagawa